

東洋水産グループ
コミュニケーション
レポート

2015

～ステークホルダーの皆様へ～



営業の概況

2014年度におけるわが国経済は、消費税率引き上げによる個人消費の落ち込みや円安進行為懸念材料となっておりますが、各種政策の効果や雇用・所得環境の改善が続き、緩やかな回復基調となりました。

このような状況の中、当社グループは「Smiles for All.すべては、笑顔のために。」という企業スローガンの下で「食を通じて社会に貢献する」「お客様に安全で安心な食品とサービスを提供する」ことを責務と考え取り組むと共に、厳しい販売競争に対応するため、より一層のコスト削減ならびに積極的な営業活動を推進してまいりました。

この結果、2014年度の業績は、売上高は381,259百万円(前年同期比2.4%増)、営業利益は25,075百万円(前年同期比18.0%減)、経常利益は26,630百万円(前年同期比17.4%減)、当期純利益は16,901百万円(前年同期比25.6%減)となりました。

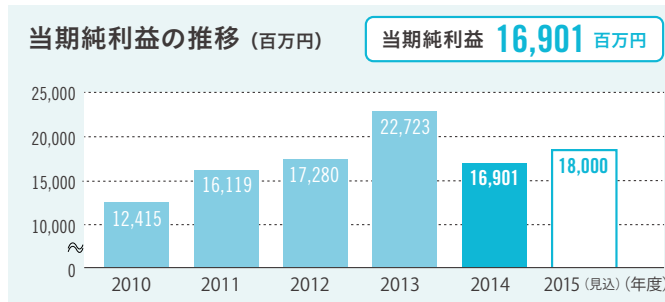
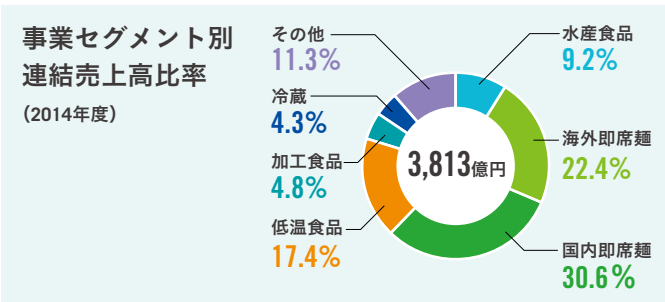
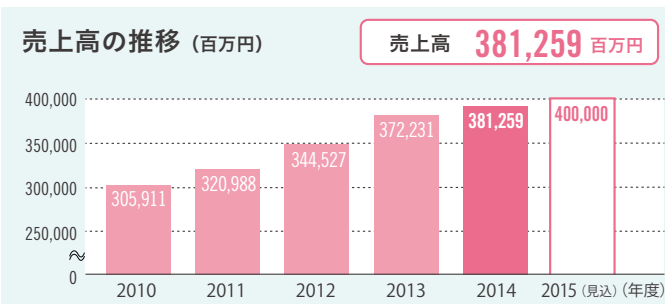
2015年度の見通し

2015年度の見通しにつきましては、景気は緩やかながら回復基調が続くことが期待されます。

当食品業界におきましては、個人消費の持ち直し傾向もみられるものの、消費者の生活防衛意識や低価格志向が続く中で、市場環境は引き続き厳しい状況にあります。また、食の安全・安心等企業の社会的責任が益々求められていくものと考えております。当社グループにおきましては、さらに地域別、製品別の販売促進を強化した積極的な営業活動を実施してまいります。また、費用面でもより厳しい販売競争に対応するため、物流の再構築・生産部門での徹底したコストの削減に注力していく所存であります。

以上により、通期の売上高は400,000百万円(前年同期比4.9%増)、営業利益は28,000百万円(前年同期比11.7%増)、経常利益は29,000百万円(前年同期比8.9%増)、当期純利益は18,000百万円(前年同期比6.5%増)を見込んでおります。なお、対米ドルの換算為替レートは120.00円で想定しております。

連結決算ハイライト



会社概要

社名	東洋水産株式会社 Toyo Suisan Kaisha, Ltd.
創立	1953年3月25日
資本金	189億6,952万円
従業員数(連結)	4,687名
売上高(連結)	3,813億円(2015年3月期)
本社	〒108-8501 東京都港区港南2丁目13番40号 TEL. (03)3458-5111(代表)
創業者	森 和夫
代表者	会長 堤 殷 社長 今村 将也
事業所数	工場8・冷凍冷蔵庫14 支店・営業所28
関係会社	32社(海外10社含む)

工場

- ・北海道工場
- ・関東工場
- ・埼玉工場
- ・相模工場
- ・焼津工場
- ・田子工場
- ・神戸工場
- ・福岡工場

主要グループ企業

国内連結子会社

- ・八戸東洋株式会社
- ・甲府東洋株式会社
- ・フクシマフーズ株式会社
- ・宮城東洋株式会社
- ・株式会社酒悦
- ・新東物産株式会社
- ・伊万里東洋株式会社
- ・株式会社フレッシュダイナー
- ・株式会社東京商社
- ・銚子東洋株式会社
- ・ユタカフーズ株式会社
- ・ミツワデイリー株式会社
- ・埼玉東洋株式会社
- ・湘南東洋株式会社
- ・スルガ東洋株式会社
- ・株式会社シマヤ

支店・営業所

北海道支店

- └ 旭川営業所
- └ 函館営業所
- └ 帯広営業所

東北支店

- └ 仙台営業所
- └ 青森営業所
- └ 盛岡営業所
- └ 秋田営業所
- └ 福島営業所
- └ 山形営業所

甲信越支店

- └ 新潟営業所
- └ 長野営業所
- └ 甲府営業所

北関東支店

- └ 栃木営業所
- └ 茨城営業所
- └ 群馬営業所

東京支店

- └ 神奈川営業所
- └ 千葉営業所
- └ 埼玉営業所

静岡支店

- └ 名古屋支店
- └ 金沢営業所

大阪支店

- └ 中国営業所
- └ 四国営業所

福岡支店

- └ 沖縄営業所

冷蔵庫

- ・札幌冷蔵庫
- ・石狩冷蔵庫
- ・大井埠頭冷蔵庫
- ・平和島冷蔵庫
- ・城南島冷蔵庫
- ・東扇島第一冷蔵庫
- ・東扇島第二冷蔵庫
- ・東扇島第三冷蔵庫
- ・名古屋冷蔵庫
- ・中部物流センター
- ・舞洲冷蔵庫
- ・神戸冷蔵庫
- ・福岡冷蔵庫
- ・佐賀冷蔵庫

海外連結子会社

- ・MARUCHAN, INC.
- ・MARUCHAN VIRGINIA, INC.
- ・MARUCHAN TEXAS, INC.
- ・MARUCHAN DE MEXICO, S.A. DE C.V.
- ・SANMARU DE MEXICO, S.A. DE C.V.
- ・PAC-MARU, INC.

非連結子会社 他

- ・ヤイズ新東株式会社
- ・東和エステート株式会社
- ・下田東水株式会社
- ・株式会社いらご研究所
- ・海南東洋水産有限公司
- ・湛江東洋水産有限公司
- ・青島味豊調味食品有限公司
- ・仙波糖化工業株式会社[※]
- ・ヒガシマルインターナショナル株式会社
- ・マルちゃん味の素インド社

※持分法適用関連会社

「Smiles for All.」

すべてのステークホルダーの笑顔のために。

1953年、当社は築地市場で誕生しました。国内での水産物の取扱い、冷凍マグロの輸出を出発点として、冷蔵庫事業、「マルちゃん」ブランドでおなじみの加工食品事業や海外事業など、様々な事業を展開し、東洋水産グループとして発展してまいりました。

社会情勢の変化に伴い、消費者の皆様やお取引先様、株主様などステークホルダーのニーズは益々多様化しておりますが、この度持続的に企業価値を高めるため「CSR活動方針」を定めました。今後はこの活動方針に基づき、企業グループを取り巻く様々な課題に取り組んでまいります。

お客様が「笑顔」になる食生活を守ります

食の安全性に対する信頼を揺るがす事件や事故が発生する中、常に安全・安心な商品を皆様にお届けするため、異物混入対策や従業員教育の徹底など、より厳しい品質保証体制の整備を進めています。

また、食の「おいしさ・楽しさ・便利さ」をご提供する商品開発も進めています。女性の皆様のためのカップ麺「hanauta」や、電子レンジで調理可能なチルド麺「レンジでもおいしい」シリーズなど、これまでになかった商品で新しいおいしさをお届けしています。

次世代の「笑顔」のため、 健やかな成長をサポートします

次の世代を担う子供たちに、食文化や食の楽しさを伝えることも

食品メーカーとしての責務であると考え、食育活動をさらに推進しています。工場見学などに加えて、昨年度は地元の自治体やNPOと協働した出張授業を行いました。

また、スポーツを通じた健全な心身の育成のお手伝いをするため、「マルちゃん杯少年柔道大会」などを実施しています。

地域や社会の「笑顔」のため、地道に取り組みます

日本各地の事業所で、地域に根ざした活動を行っています。田子工場では近隣の漁港でカサゴの稚魚放流を続けており、昨年度で16回目となりました。またそれぞれの事業所で、地元で開催されるお祭りへの協賛など、日頃お世話になっている地域の皆様に直接貢献できる活動を続けています。海外においても、柔道大会の協賛やコミュニティへの寄付などを行っています。

環境負荷を低減し、未来の「笑顔」を守ります

事業活動に伴う環境負荷を低減するため、グループ全体で省エネ・省資源・廃棄物削減・再資源化などの取り組みを積極的に行っています。国際規格の環境マネジメントシステムISO14001については、東洋水産(株)では全部門で認証取得しており、グループ会社においても環境負荷の大きい事業所で認証取得を進めています。また、各地の事業所では、地域の清掃活動に参加するなど、身近な環境保全にも積極的に取り組んでいます。

社員が「笑顔」で活躍できる企業を目指します

多様な個性を持つ従業員が、それぞれの能力を最大限発揮することで、新しい価値を創造し、企業の成長・発展につながるという考えから、昨年度より「ダイバーシティ（多様性）委員会」を発足させ、活動を行ってきました。

従業員一人ひとりが、やりがいを持っていきいきと働き笑顔になることが、すべてのステークホルダーの笑顔につながると考えています。

これからも愛され続ける企業グループとして

株主様への利益還元や迅速かつ透明性の高い情報公開、お取引先様との強いパートナーシップの構築などの取り組みを継続し、さらに「CSR活動方針」に基づき着実に行動することが、東洋水産グループのスローガンである「Smiles for All. すべては、笑顔のために。」の実現につながると考えています。これからも様々に変化するステークホルダーのニーズにお応えすることで、企業価値をより一層高めると共に、持続可能な事業の発展のための取り組みを一つひとつ進めてまいります。

東洋水産グループ CSR 活動方針

東洋水産グループは「Smiles for All. すべては、笑顔のために。」をスローガンに、「食」を通じて、それぞれの国や地域の皆様に笑顔を届けたいと考えています。

私たち一人ひとりは、「やる気と誠意」を胸に仲間や関係者と協力し、事業活動を通じた社会貢献に励みます。

それにより、社員の働きがいや誇りが生まれ、グループ全体の成長につながります。「笑顔」という言葉がすぐに連想できる企業グループを目指し、東洋水産グループらしいCSR活動を行います。



代表取締役社長

今村 将也

5つの重点テーマ 5つの「笑顔」

社員に笑顔

社員一人ひとりが主役となり、笑顔で活躍できる組織を目指します。

食生活に笑顔

健やかなるときも、病めるときも、お客様が笑顔になる食生活を守ります。

社会に笑顔

社会の一員として、それぞれの国や地域の皆様と積極的に連携し、社会の笑顔に貢献します。

地球に笑顔

環境負荷の低減に積極的に取り組み、未来の笑顔を守ります。

次世代に笑顔

次世代を担う子供や若者たちの笑顔のため、心と体の健やかな成長をサポートします。

▶ 事業概況

水産食品事業

水産加工品の新規商品開発や販売を量販店・コンビニ等へ積極的に推し進めた結果、売上高は34,514百万円(前年同期比3.2%増)となりました。しかしながら、円安の進行や主力魚種の販売競争の激化により、国内外の魚価の高騰に伴う原料価格高騰分を販売価格に十分に転嫁できなかったため、セグメント損失は769百万円(前年同期はセグメント損失160百万円)となりました。

海外即席麺事業

アメリカ国内においては、大手メーカー間の特売スペース争奪が起こっていることに加え、メインターゲット層の中・低所得者で、消費の二極化・多様化の傾向がみられ、販売数量回復のペースが遅れております。メキシコでは、主力のカップ麺の拡販と共に、袋麺の拡販を進めたことにより販売数量は増加しました。これらの結果、現地通貨ベースでは減収となりましたが、円安の影響により、売上高は86,045百万円(前年同期比14.1%増)となりました。セグメント利益は、売上減による工場稼働の減少や、マルチャンテキサス、INC.新工場稼働による減価償却費の増加により、12,162百万円(前年同期比7.4%減)となりました。

国内即席麺事業

主力ブランドの「赤いきつねうどん」「緑のためき天そば」「麺づくり」「マルちゃん正麺」を中心に、消費者キャンペーン等積極的な販促活動を展開しましたが、4月の消費税率引き上げによる消費者の購買意欲の減少、1月からの価格改定を実施したことによる市場環境変化の影響を受けました。このような環境の中、カップ麺は話題性のあるコラボ商品やミニサイズ・大盛サイズ等幅広い商品ラインアップの展開により需要の底上げを図りました。特に、「おそば屋さんの鴨だしそば」等の和風シリーズの新商品や、大盛商品の「ごつ盛り」が好調に推移したことにより増収となりました。袋麺は、「煮込んで食べるマルちゃん正麺」「マルちゃん正麺 鴨だしそば」の新発売等の拡販に努めましたが、袋麺市場全体が縮小傾向にあることや、競争の激化により減収となりました。その結果、売上高は117,397百万円(前年同期比5.9%減)、セグメント利益は袋麺の減収に加え、原材料価格の高騰や物流費等の増加の影響もあり、9,208百万円(前年同期比24.2%減)となりました。

低温食品事業

主力品である「マルちゃん焼そば3人前」シリーズのリニューアルと販促強化に加え、「マルちゃんの生ラーメン」シリーズでの消費者キャンペーン等による新規ユーザー開拓や、「ニッポンのうまい!ラーメン」シリーズ等の新商品投入により生麺類全体で増収となりました。冷凍食品類はライスバーガーや枝豆、冷凍麺は市販用「屋台一番 焼そばソース味 大盛り1.5倍」等の新規導入が貢献し好調に推移しました。その結果、売上高は66,875百万円(前年同期比4.6%増)、セグメント利益は3,535百万円(前年同期比5.7%増)となりました。

加工食品事業

米飯は主力の無菌米飯に加え、健康系や洋食系シリーズが堅調に推移し増収となりました。フリーズドライ製品は、主力の5食入りバックスープが堅調に推移したことにより増収となりました。魚肉ハム・ソーセージや調味料類は、原材料価格が高騰する中、適正価格での販売に努めましたが減収となりました。その結果、売上高は18,307百万円(前年同期比0.8%減)、セグメント利益は前期に高騰していた原料米価格が安定したこと、だしの素の価格改定により488百万円(前年同期比136.8%増)となりました。

冷蔵事業

円安による仕入価格の上昇を受けた原料系の輸入商品の取扱いは減少しましたが、首都圏を中心に冷凍食品類の取扱いが堅調に推移したことや、東扇島新自動倉庫稼働による庫腹の増加により、売上高は15,575百万円(前年同期比2.1%増)となりました。セグメント利益は、東扇島新自動倉庫の減価償却費及びその他諸経費の増加により、1,211百万円(前年同期比1.0%減)となりました。

その他

主に弁当・惣菜事業になります。売上高は42,608百万円(前年同期比4.1%増)、セグメント利益は(株)フレッシュデザイナー山形工場の減価償却費等の増加により52百万円(前年同期比95.9%減)となりました。

▶ 連結財務諸表

連結貸借対照表(要旨)

(単位：百万円)

科目		当連結会計年度 2015.3.31	前連結会計年度 2014.3.31
資産の部	流動資産	181,243	164,904
	現金及び預金	68,331	54,082
	受取手形及び売掛金	46,788	48,989
	繰延税金資産	1,574	1,822
	その他	65,032	60,511
	貸倒引当金	△ 485	△ 501
	固定資産	152,690	143,882
有形固定資産	120,669	119,179	
無形固定資産	3,232	2,408	
投資その他の資産	28,789	22,293	
資産合計		333,933	308,787
負債の部	流動負債	47,860	50,669
	固定負債	26,123	21,181
	負債合計	73,984	71,851
純資産の部	株主資本	234,087	222,683
	資本金	18,969	18,969
	資本剰余金	22,516	22,516
	利益剰余金	200,821	189,404
	自己株式	△ 8,220	△ 8,207
	その他の包括利益累計額	15,620	881
	その他有価証券評価差額金	7,049	3,281
	繰延ヘッジ損益	16	11
	為替換算調整勘定	8,217	△ 2,800
	退職給付に係る調整累計額	336	390
	少数株主持分	10,241	13,371
純資産合計	259,949	236,936	
負債純資産合計		333,933	308,787

連結損益計算書(要旨)

(単位：百万円)

科目	当連結会計年度 2014.4.1～2015.3.31	前連結会計年度 2013.4.1～2014.3.31
売上高	381,259	372,231
売上原価	244,924	230,221
売上総利益	136,335	142,010
販売費及び一般管理費	111,259	111,414
営業利益	25,075	30,595
営業外収益	2,063	1,956
営業外費用	508	308
経常利益	26,630	32,243
特別利益	1,217	4,383
特別損失	205	323
税金等調整前当期純利益	27,641	36,304
法人税、住民税及び事業税	9,413	10,781
法人税等調整額	843	2,242
少数株主損益調整前当期純利益	17,385	23,279
少数株主利益	483	556
当期純利益	16,901	22,723

連結包括利益計算書(要旨)

(単位：百万円)

科目	当連結会計年度 2014.4.1～2015.3.31	前連結会計年度 2013.4.1～2014.3.31
少数株主損益調整前当期純利益	17,385	23,279
その他の包括利益	14,919	6,446
包括利益	32,304	29,726
(内訳) 親会社株主に係る包括利益	31,640	29,117
少数株主に係る包括利益	663	608

連結キャッシュ・フロー計算書(要旨)

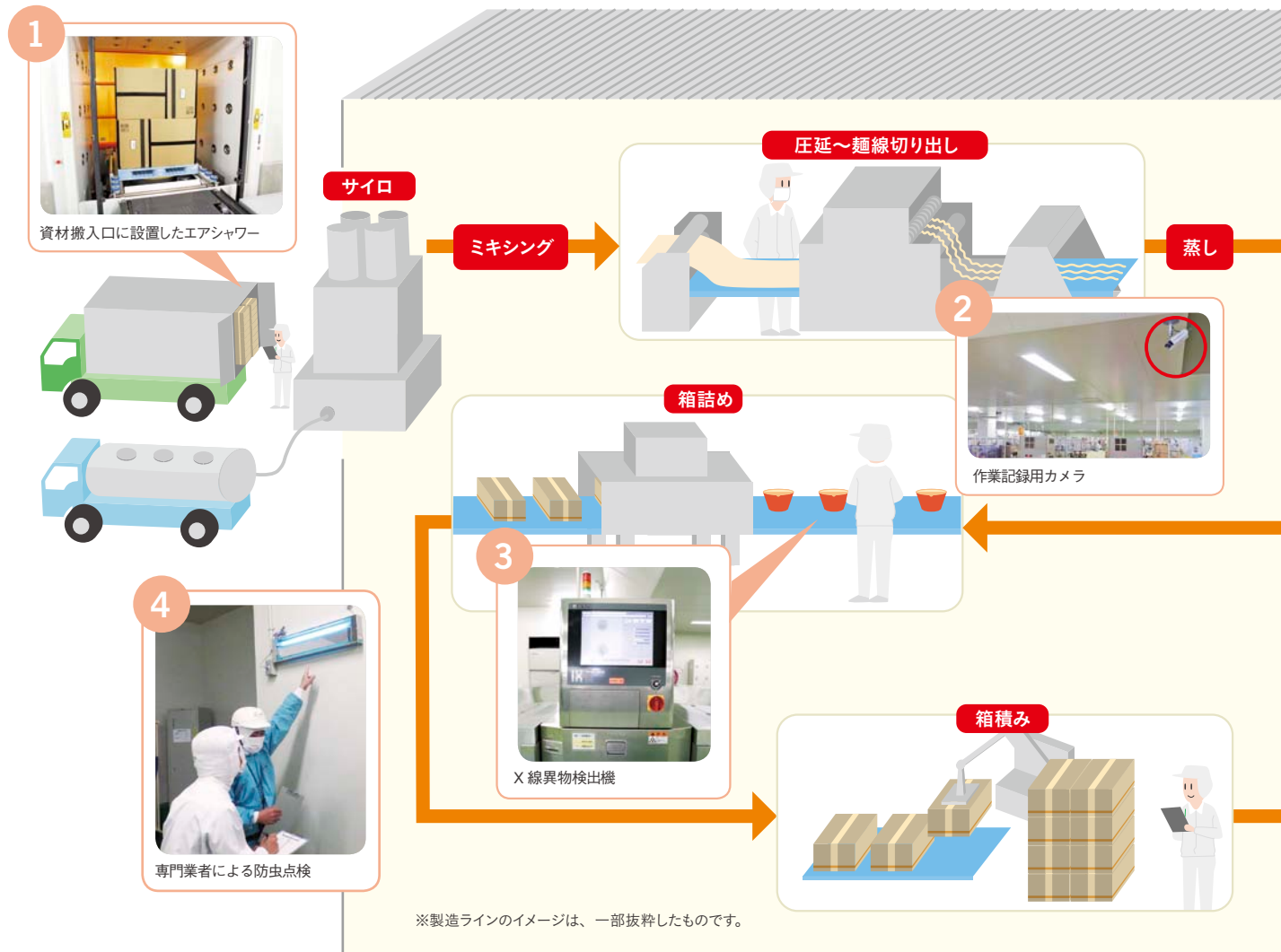
(単位：百万円)

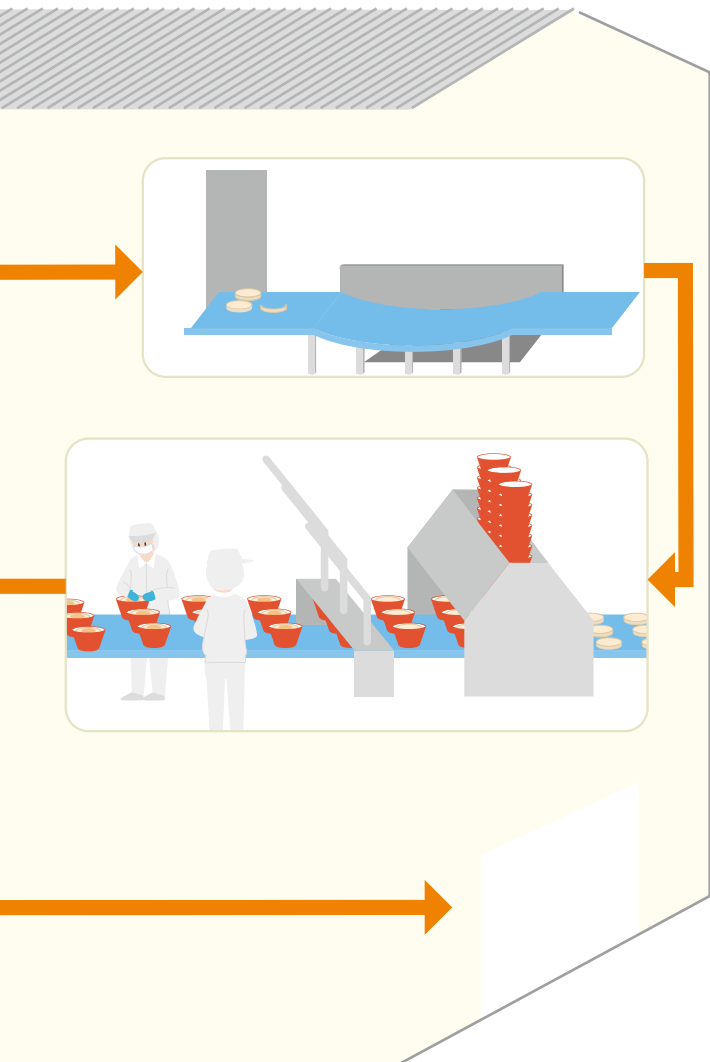
科目	当連結会計年度 2014.4.1～2015.3.31	前連結会計年度 2013.4.1～2014.3.31
営業活動によるキャッシュ・フロー	32,641	29,377
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 39,976	△ 28,521
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 8,987	△ 6,238
現金及び現金同等物に係る換算差額	2,582	1,462
現金及び現金同等物の増減額	△ 13,740	△ 3,920
現金及び現金同等物の期首残高	47,420	51,341
現金及び現金同等物の期末残高	33,680	47,420

食の安全・安心を守る取り組み

当社グループの製造工場では、安全・安心な商品をお届けするために様々な取り組みを行っています。

関東工場のカップ麺製造ラインを例にとって、その一部をご紹介します。





お客様の 笑顔のために



現地の嗜好に合った商品



メキシコの「マルチャン」
(シュリンプ&
ライム&ハバネロ味)

メキシコには1980年代後半に進出し、現在では80%以上のシェアを獲得しています。現地の嗜好に合わせ、辛味や酸味の強いフレーバーなど、日本とは全く異なる商品を提供しています。

さらにお客様にご満足いただける商品づくりを目指して

顧客満足への取り組み

日々多様化するお客様のニーズに対応するため、安全・安心でおいしいことはもちろん、食べやすさや調理のしやすさについても配慮した商品の開発を行っています。また、海外で商品開発を行うにあたっては、現地の食の嗜好を反映させることで、大きな支持をいただいています。

女性が食べやすい商品を開発



女性のためのカップ麺
「hanauta」シリーズ

女性だけで開発した、女性のためのカップ麺です。味やデザインを女性好きにするだけではなく、熱くなりやすく、女性の手に持ちやすいハンドフィット設計のオリジナルカップを採用しました。

調理しやすい商品を開発



うどん・そばに加え
季節限定のそうめんもラインアップ

「レンジでもおいしい」シリーズは、鍋で茹でるだけでなく、電子レンジでも簡単に調理できるチルド麺のブランドです。おいしさと共に便利さにもご支持をいただいています。

VOICE 「hanauta」開発担当者の声

女性をターゲットにした商品開発

“女性がポジティブに食べられる”をテーマに、女性の五感に響き、お腹だけではなく心も満足できるカップ麺を目指しました。将来の即席麺市場拡大という大きな目標に向け、一歩ずつ前進していきたいと思えます。

加工食品事業本部
淡路 まどか



原材料へのこだわり

より安全・安心で、おいしい商品を召し上がっていただくために、様々なこだわりの原材料を使用しています。手間を惜しまず、自然の素材を生かすことで、ご家庭で本格的な味わいを手軽に楽しんでいただける商品をお届けしています。

自社加工のかつお荒節粉を使用



かつお節の粉末をそのまま使用した
「赤いきつねうどん」
「緑のたぬぎ天そば」

「赤いきつねうどん」「緑のたぬぎ天そば」には、だしに自社で加工したかつお荒節粉を使用しています。風味を生かすために、加熱処理は行っていません。



自社工場でガラや野菜を使っただしを製造



自家製だしを使った
「昔ながらの中華そば」
「マルちゃんの生ラーメン醤油」

「昔ながらの中華そば」や「マルちゃんの生ラーメン」シリーズなどのスープには、調味料の一つとして、自社工場で、豚・鶏のガラや野菜などから丁寧にとっただしを使用しています。

国内産小麦を使用



チルド麺では、日本の麺に適した、新しい品種の国内産小麦を一部の商品に使用しています。北海道初の特強力小麦優良品種の「ゆめちから」や、福岡県で開発されたラーメン専用小麦「ラー麦」を使用したラーメンなどを発売しています。

「ゆめちから」を使った「ニッポンのうまいラーメン 札幌味噌」と、「ラー麦」を使った「同 博多焼きラーメン」

地球の 笑顔のために



生産・サービスの各プロセスで環境負荷を低減

● 環境負荷データ（国内）

原材料調達



主原料



副原料

原材料

35万トン



プラスチック(カップ・フィルム等)、段ボール等

包装資材

6万トン

INPUT

41万トン

東洋水産グループの生産

INPUT



エネルギー 3,033TJ

・電力 146,073千kWh

・都市ガス 27,937千m³

・A重油 3,861kl

・蒸気 111,644GJ

INPUT



補充冷媒量 4,643kg



水資源量 4,575千m³

設計・開発 包装資材の軽量化

資源の使用量を削減するため、容器・包装資材の軽量化を進めています。昨年度の主な取り組みとして、一部の即席袋麺の段ボールケースの材質を変更することにより、紙使用量を約1トン削減しました。2015年度も引き続き段ボールケースの紙使用量削減に取り組むと共に、その他の包装資材についても検討を進めます。

紙使用量を削減しても
同じ強度を維持!!



製造(福岡工場)

食品廃棄物の全量飼料化

福岡工場のチルド麺とシュウマイの製造ラインで発生する食品廃棄物は、養豚業者に引き取られ、液体飼料として利用されています。将来的には、この飼料で育てられた豚肉を原料として使用する、食の循環システムの構築を目標としています。



養豚場の液体飼料として再利用

オゾン酸化法の排水処理設備を導入

(株)フレッシュ
ダイナー
山形工場



(株)フレッシュダイナー山形工場では、グループで初めて「旋回噴流式オゾン酸化法」を用いた排水処理設備を導入しました。食品工場の排水は、有機物や油脂だけでなく、殺菌剤や洗剤剤も含まれるため、従来の微生物による処理では不安定になりやすいという問題があります。これをオゾンを用いた設備を導入することで解消しました。



製造(焼津工場) 水使用量の削減

焼津工場の魚肉ハム・ソーセージ製造ラインでは、レトルト殺菌時に使用する熱水の温度を従来より高く設定することで、温度調整に必要な水の量を削減しました。また、冷凍麺ラインでは、茹で釜や麺の冷却に使う水の配管に流量計を設置したり、清掃用ホースに手で水を止められるバルブを取り付けたりすることで、約1千トンの水使用量を削減しました。

改善項目	削減量
熱水温度調整	540t / 年
流量計設置による給水量の統一	240t / 年
清掃用ホースにバルブ設置	240t / 年

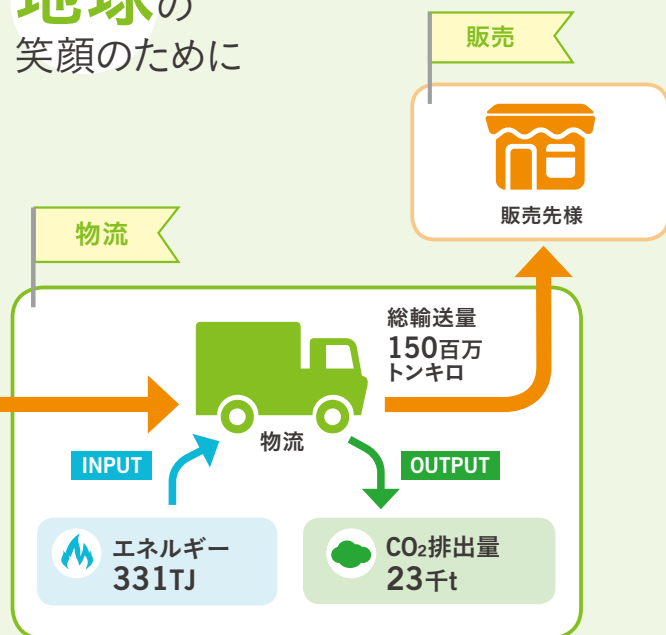
製造(埼玉工場) 排水の温度調整

埼玉工場では、麺の茹で工程や蒸し工程があるため、排水の温度が自然水温よりやや高くなる傾向にありました。放流先の水域への影響を考慮し、より自然な状態に保つため、熱回収装置や空冷式の装置を設置し、水温を下げる取り組みを行っています。



ハスが生い茂る流域の池

地球の 笑顔のために



物流

車両台数の削減・ 鉄道への切り替えの実施

チルド商品の配送では、積載効率に無駄のある配送ルートを開き出し、共同配送や配送便の集約を行うことで、車両台数の削減に努めています。即席麺の配送では、長距離輸送便のトラックからCO₂排出量の少ない鉄道への切り替えを推進しています。

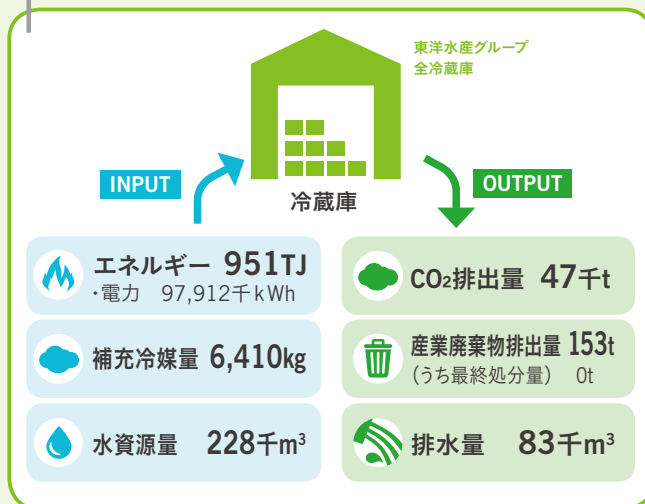
配送便集約のイメージ



冷蔵庫 環境負荷の少ない冷媒の採用

冷蔵庫の冷媒として一般的なフロン類は、温室効果の高さが問題となっています。当社グループでは、新設する冷蔵庫の冷媒には温室効果のないアンモニアを用いています。

冷蔵庫



VOICE

冷蔵庫整備担当者の声

環境に優しい冷蔵庫を目指して

冷蔵庫では環境に影響を与えるフロン冷媒を多く使用しています。環境影響の無い自然冷媒機器の導入・既設フロン冷媒機器の適切な管理を行うことで地球環境保全に努めています。



北海道事業部工務課
國井 孝宏

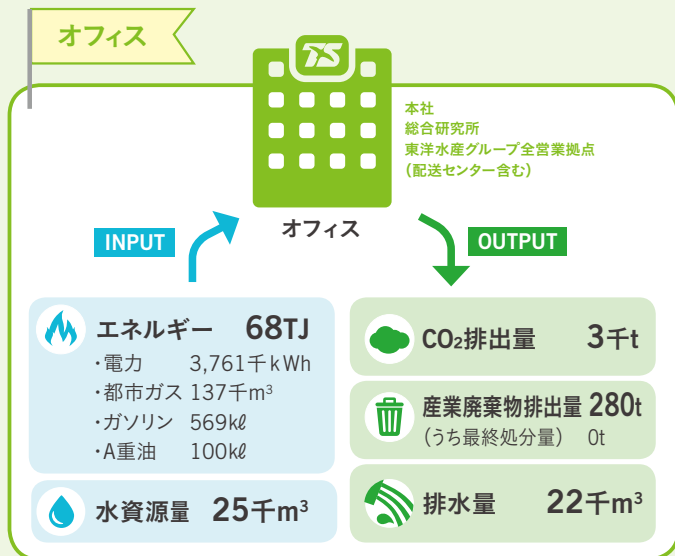
国内事業所【合計】

INPUT エネルギー	4,383TJ
水資源量	4,828千m ³
補充冷媒量	11,053kg

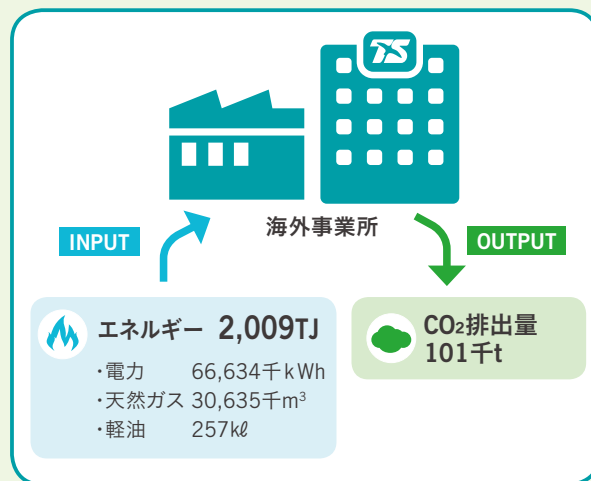
OUTPUT CO ₂ 排出量	215千t
排水量	3,310千m ³
産業廃棄物排出量 (うち最終処分量)	14,117t 21t

※ 端数調整のため、合計が合致しない場合があります。

オフィス



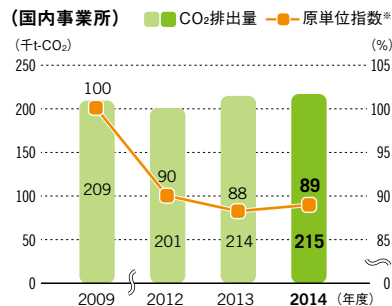
● 環境負荷データ (海外)



※ 海外事業者の電力については、GHGプロトコルの排出係数を使用。

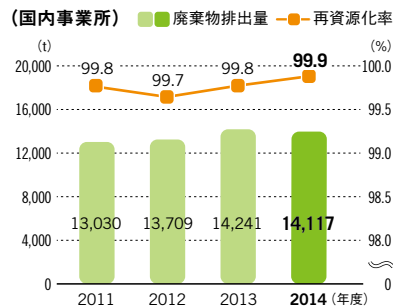
● 環境負荷データの推移

CO₂排出量と売上高原単位



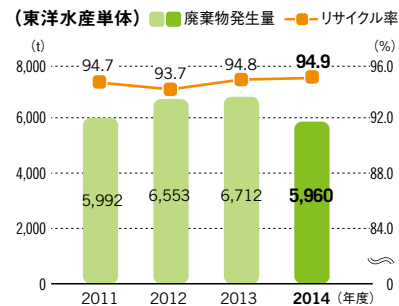
※ 2009年度を100とした指数

産業廃棄物排出量と再資源化率



● 再資源化率=1-(最終処分実施量÷産業廃棄物排出量)

食品廃棄物の発生量とリサイクル率



CO₂排出量算出の根拠

- 電力 電気事業連合会 2009年度実績に基づく使用端CO₂排出原単位 (0.351kg-CO₂/kWh) を使用
- 電力以外 温対法の換算係数を使用
- 使用冷媒 IPCC4次レポート「地球温暖化係数 (GWP)」を使用

地域・社会の 笑顔のために

地域に根ざした社会貢献活動

食育活動

「食を通じ、みなさまに笑顔をお届けしたい」という思いのもと、安全・安心でおいしい商品をお届けするだけでなく、食についての様々な知識・情報をご提供することも、私たちの大切な使命と考えています。これからの社会を担う子供たちを対象に、私たちの商品を通して、身近な食品についての知識や、食べることの楽しさを伝える活動を行っています。

VOICE

食育活動担当者の声

「ひ・まわり探検隊」実施について

工場で使用している小麦粉で手打ちうどんを作りました。子供たちは、粉だらけになりながら一生懸命にチャレンジし、最後にはできたてのうどんを食べて笑顔を見せてくれました。原料や製法についてもお伝えすることで、うどんに親しんでもらう良い機会になったと思います。



埼玉工場
村田 了佑



ユタカ
フーズ
(株)

自分で作ったカップ麺は特においしかったようです

「サイエンストーク」



地元の愛知県知多郡武豊町のNPOたけとよ・武豊町教育委員会が主催するイベント、「サイエンストーク」に参加し、「だし」についての講義や実験、「オリジナルカップ麺づくり」を行いました。

埼玉工場

みんなで一生懸命作りました

「ひ・まわり探検隊」



地元の埼玉県日高市が主催する小学生向けプログラム「ひ・まわり探検隊」に参加し、「マルちゃん つくってみよう!うどん教室」を実施しました。

相模工場

真剣に製造ラインを見学していました

「比々多小学校工場見学会」



隣接する、伊勢原市立比々多小学校の3年生109名の皆さんに、社会科の授業の一環として工場内を見学してもらいました。見学後には「ドキドキした」「とても勉強になった」といった感想をいただきました。

社会貢献 ハイライト

子供たちの健全な心身の育成を目指したスポーツ支援や、地域の自然保護活動など、様々な取り組みを行っています。



マルちゃん杯 全国少年柔道大会の様子

全国7地区で「マルちゃん杯少年柔道大会」を、またその全国大会にあたる「マルちゃん杯全国少年柔道大会」を主催しました。



24時間テレビの 街頭募金

「24時間テレビ37 ―愛は地球を救う―」に協賛し、全国で街頭募金活動を行いました。

フードバンクへの支援

フードバンク団体「セカンドハーベスト・ジャパン」に、定期的にカップ麺や袋麺などを提供しています。



武豊町立武豊中学校の皆さん

品川の当社では修学旅行生の職場訪問の受入れを行っています。昨年度は15校126名が訪問しました。



剣道教室の様子

本社近隣の小学生を対象に、本社武道場にて「マルちゃん夏季少年剣道教室・柔道教室」を実施しました。



地元の子供たちが 手伝ってくれました

静岡県賀茂郡西伊豆町の田子工場では、地元の田子港周辺で16回目となる稚魚放流活動を行い、16,000匹のカサゴの稚魚を放流しました。

従業員の 笑顔のために

従業員一人ひとりが能力を発揮できる職場づくり

人材育成

当社グループでは、従業員の成長を支援するため、様々な研修を行っています。業務に必要な専門知識や企業文化への理解などを育む「OJT」や、組織上の役割、能力や意識の向上を図る「集合型研修」などを通じ、学びの意識を高めます。意欲ある従業員の能力開発を後押しし、一人ひとりが自発的に成長する気持ちを生み出すことで、将来の東洋水産グループを担う人材の育成を図っています。

VOICE

研修参加者の声

新しい考え方を学ぶ良い機会に

私が参加した課長職研修では、営業や工場など、通常業務では関わることのない様々な部署の方々と、同じ課題について考えを共有することができました。そうした中で、自分の足りない部分や、自分とは違う物事の捉え方・考え方を学ぶ良い機会となりました。



健康保険組合
後藤 友見子

ダイバーシティ/ ワークライフバランスの推進

年齢・性別・国籍などの異なる従業員一人ひとりの能力を十分に生かすためには、ダイバーシティ(多様性)の尊重が不可欠です。そこで、2014年度より「ダイバーシティ委員会」を組織し、理解促進を図っています。昨年度は全従業員を対象にした意識調査や、研修会を実施しました。今後も定期的な情報発信など、ダイバーシティ推進のための活動を続けていきます。

「ワークライフバランス」(仕事と仕事以外の生活がそれぞれの希望する状態で調和がとれること)を実現するためには、会社も個人も働き方を見直すことが必要となります。労働環境のさらなる改善、制度改革などに取り組むことで、従業員一人ひとりの成長を会社の持続的発展につなげます。

労働安全衛生

当社グループでは、全従業員の安全と健康を第一に考えています。各事業所の安全衛生委員会において、定期的な職場巡回などを行い、ゼロ災害の実現に向け、日々取り組んでいます。また、メンタルヘルス対策をさらに強化し、従業員の心と身体の健康の増進に努めます。

VOICE

製造ライン担当者の声

安全・安心な職場作り

事故防止の設備を設置すると共に、デモ機を用いた「見る・触る・聞く・感じる」安全教育を行うことで、安全への意識・知識を高めています。安全・安心な商品をお届けするため、従業員が安全で安心して働ける職場作りに努めます。



関西事業部神戸工場

松浦真里・松浦真樹

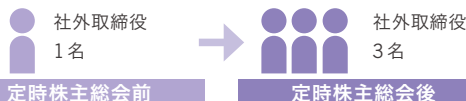
ガバナンス／コンプライアンス

コーポレート・ガバナンス

内部統制システムの概要

当社の取締役会は、2015年6月26日の定時株主総会以降、社外取締役を含む取締役15名で運営されています。原則月1回の定例取締役会以外にも機動的に開催し、業務執行状況の監督、会社法・定款で定められた事項及び重要事項の決定を行っています。ガバナンス体制をさらに強化するため、定時株主総会にて社外取締役が3名に増員されました。また、当社は監査役制度を採用しており、社外監査役2名を含む4名の監査役で構成される監査役会が、取締役の職務執行を監査しています。

社外取締役を増員し、さらにガバナンス体制を強化



財務報告にかかわる内部統制

当社グループでは、金融商品取引法に基づく内部統制報告書制度に対応するために、各部署・関係会社において財務報告に係る内部統制を整備しています。また専門部署である内部統制部を設置して運用状況を確認し、必要に応じて改善指導を行うことにより、グループ全体の内部統制の有効性を評価しています。2014年度期末日時点において、当社は当社グループの財務報告に係る内部統制は有効であると判断しました。今後もこうした取り組みにより、財務報告の信頼性を確保し、ステークホルダーの皆様からより一層の信頼を得られるよう努めます。

コンプライアンス教育

当社グループでは、お客様、社会から信頼される誠実な企業であり続けるために、コンプライアンスを推進しており、法務部が主管となって以下のコンプライアンス教育に取り組んでいます。

- ① コンプライアンスマニュアルの周知・徹底
- ② 役員・全従業員を対象とした、全国の事業所を巡回して実施するコンプライアンス勉強会
昨年度実績：47事業所にて全177回実施、
5,702名参加
- ③ 階層別に集合して実施するコンプライアンス勉強会
(新入社員・2年次社員・各職掌昇格者)
- ④ 社内報や法務部通信を通じた毎月のコンプライアンスに関する話題の提供

コンプライアンス意識を浸透させ、私たちすべてが一人も欠けることなく公正で誠実な判断のもと、「健康」そして「笑顔」で業務に励めるように、今後もコンプライアンスの維持・向上を図ります。



(株)フレッシュダイナー山形工場での
コンプライアンス勉強会



コンプライアンスマニュアル



Smiles for All.

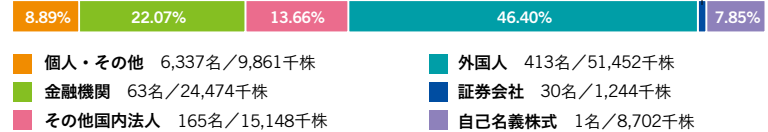
すべては、笑顔のために。

▶ 株主メモ

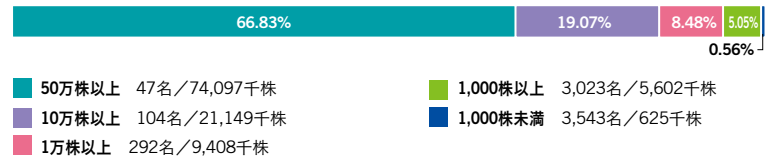
事業年度	4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	6月
基準日	期末配当は3月31日 中間配当を行う場合は9月30日
公告方法	電子公告 ただし電子公告できない場合は、日本経済新聞に掲載いたします。 アドレス http://www.maruchan.co.jp/
株主名簿管理人 特別口座の口座管理機関	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
郵便物送付先 (電話照会先)	〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部 電話 0120-782-031(フリーダイヤル) 取次事務は、三井住友信託銀行株式会社の本店及び全国各支店で行っております。
単元株式数	100株
上場証券取引所	東京証券取引所(市場第一部)

▶ 株式分布状況

所有者別



所有株数別



▶ 株式に関する各種手続きについて

・住所変更、単元未満株式の買取、配当金受領方法の指定等

株主様の口座のある証券会社にお申出ください。
証券会社に口座がないため特別口座が開設されました株主様は、特別口座管理機関である三井住友信託銀行株式会社にお申出ください。

・特別口座から証券会社の口座への振替申請

特別口座の株式については、単元未満株式の買取請求を除き売買ができません。売買を行う場合は証券会社の口座への振替が必要になります。手続きの詳細は、上記「株主メモ」記載の電話照会先にご確認ください。

・未払配当金の支払請求

株主名簿管理人である三井住友信託銀行株式会社にお申出ください。

▶ 株主優待制度

当社は日頃よりご支援いただいております株主の皆様への感謝の意を込め、毎年3月31日時点で当社株式100株以上を1年以上継続保有*された株主様に、自社商品詰合わせセットを贈呈、または社会貢献活動団体への寄付をお選びいただける株主優待制度を実施しております。

※「1年以上継続保有」の条件は、年2回(9月、3月)確定する株主名簿に同じ株主番号で3回以上連続で記載されることとしております。

株式保有数(株)	優待内容
100~999	2,000円相当の自社商品詰合わせセット、または優待相当額を社会貢献活動団体へ寄付*
1,000~2,999	3,500円相当の自社商品詰合わせセット、または優待相当額を社会貢献活動団体へ寄付*
3,000~	5,000円相当の自社商品詰合わせセット、または優待相当額を社会貢献活動団体へ寄付*

※寄付対象の社会貢献活動団体は毎年選定させていただき、お知らせいたします。

ゆうちょ銀行の貯金口座で配当金をお受取いただけます

配当金の振込先として、銀行等の預金口座に加えて、ゆうちょ銀行の貯金口座もご指定いただけます。

希望される場合は、株主様の口座のある証券会社にお申出ください。
特別口座が開設されました株主様は、特別口座の口座管理機関である三井住友信託銀行株式会社にお申出ください。

編集方針

各ステークホルダーに対する取り組みを報告するため、当社では2011年度より「CSR報告書」を発行してきました。今年度は株主の皆様を中心とした幅広いステークホルダーに、当社をより深く知っていただくため、「事業報告書」と統合し、「コミュニケーションレポート」として発行致しました。こちらに記載のない全体的な取り組みについては、下記URLのホームページをご覧ください。

<http://www.maruchan.co.jp/csr>